

# Vascular Street


 特集

## 第 82 回日本循環器学会学術集会を終えて

2018年3月23日 - 25日 (大阪)



はじめに

第 82 回日本循環器学会学術集会が 2018 年 3 月 23 日 (金) ~ 25 日 (日)、テーマ「Futurability ~ 明日の循環器医療を拓く ~」として、大阪大学心臓血管外科 澤 芳樹 会長のもと、開催されました。

最新の検査・治療に関する多くの演題が発表されていましたが、福岡大学医学部心臓・血管内科学から 19 演題、他施設との共同で 8 演題、計 27 演題を報告しました。そのいくつかの発表をここではご紹介します。

福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎

### <発表された先生の中から発表内容と一言>

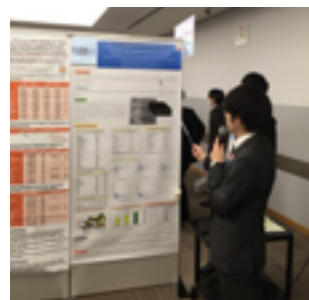
#### 「Impact of Von Willebrand Factor on Coronary Plaque Burden in Coronary Artery Disease Patients Treated with Statins」



二見先生

**Futami M, Iwata A, Kato Y, Yamashita M, Imaizumi S, Kuwano T, Ike A, Sugihara M, Nishikawa H, Zhnag B, Yasunaga S, Saku K, Miura S.**

今回、スタチン内服下での冠動脈プラークと vWF との関連について検討しました。冠動脈疾患症例では、内皮機能障害を来しており NO(一酸化窒素)の産生が低下しています。NO は、vWF を低下させることが報告されているため、冠動脈疾患では vWF が高値であるとされています。また、スタチンは、冠動脈イベント予防として確立された治療法であり、多面的効果があり、その一つに NO を増加させ血管内皮障害を改善する作用があり、vWF を低下させていると考えました。結果は、スタチン内服下でも冠動脈プラークと vWF との相関を認め、多変量解析では vWF は独立した因子でありました。vWF は抗血小板薬や抗凝固薬などとの関連しますが、今回は全例に抗血小板薬と抗凝固薬が投与されていても同様の結果を得ることができました。従って、大規模な検討が必要ですが、冠動脈疾患の残余リスクのマーカーとして vWF が有用である可能性を報告しました。



#### 「Association Between Plasma Levels of PCSK9 and the Presence or Severity of Coronary Artery Disease in Japanese」



野瀬先生

**Nose D, Shiga Y, Ueda Y, Idemoto Y, Tashiro K, Suematsu Y, Kuwano T, Kitajima K, Saku K, Miura S.**

スタチン非服用者において、冠動脈疾患患者の血中 PCSK9 は、非冠動脈疾患患者と比較して有意に高い。今回、「Association between Plasma PCSK9 and the Presence or Severity of Coronary Artery Disease」のタイトルで発表する機会をいただきました。私の後に発表される先生が有名な方であったため、部屋の中が予想以上に多いことに緊張しました。PCSK9 と冠動脈疾患の関連性について大学病院で集積した冠動脈 CT のデータをもとに発表をしたわけですが、なかなか自分のやっていることに対して自信が持てず、発表の直前まで三浦教授、志賀先

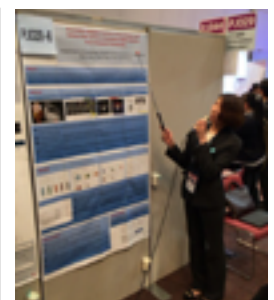
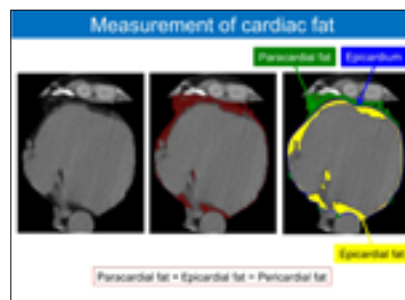
生をはじめ、先生方にご指導をいただくことで、なんとか無事に終えることができたというのが率直な感想です。質疑応答では十分な回答ができていなかった部分もあったかとは思いますが、他施設、大学の先生方と話すこともでき、非常に良い機会だったと感じます。学会発表に対する見方も、注目する点や学ぶべき点等に関して、変わったような気がしました。今後に生かしたいと思います、発表の機会を頂き有難うございました。

### 「Association between Coronary Artery Disease and Various Kinds of Fat as Assessed by Multi-detector Row Computed Tomography」



Ueda Y, Shiga Y, Miura S.

上田先生 今回の日本循環器学会総会では、各種脂肪組織と冠動脈疾患との関連性に関するポスター発表を行いました。研究内容としては、冠動脈疾患が疑われ冠動脈 CT を施行された患者を対象として、それぞれ冠動脈 CT を用いて心臓周囲脂肪、内臓脂肪、皮下脂肪を計測し、冠動脈疾患との関係性を検討したものでした。結果として、最も冠動脈疾患と関連のある脂肪組織は、心臓周囲脂肪のうち心外膜の外側の脂肪 (paracardial fat) でした。これまでの報告で冠動脈疾患と最も関連のある脂肪組織は、心外膜の内側の脂肪 (epicardial fat) といったものがほとんどでしたが、今回の結果はそれとは相反するものでした。そのためフロアからも、その機序についての質問、計測手技や測定者が一人であったことに対する指摘がありました。機序に関しては、組織、細胞レベルでの検討を行っておらず、これまでに報告も少ないことから不明であり、今後の課題と考えました。その他、質問等についても座長の先生をはじめ、活気的な discussion ができたと実感しています。



### 「服薬アドヒアランスに対する外来患者とその担当医師への服薬アンケート調査から見てきたもの」



大津友紀、甲斐麻美子、清見文明、神村英利、朔啓二郎、三浦伸一郎

限られた短い発表の時間内で、聴講者に過不足なく十分に内容を伝えることができたか、自分の中で満足のいく結果とはなりません。しかし、日本循環器学会での発表及び参加は初めてでしたので、有益な経験をさせていただいたと感じています。質疑応答では、自分の研究に足りない部分の気付くことが

- 服薬アドヒアランスの向上に必要なこと
- ◆患者は医師の考えとは異なることを意識
  - ◆こまめな状況確認
  - ◆リマインド(患者の記憶にとどめる)
  - ◆報告・相談しやすい環境づくり
  - ◆協力関係・治療同盟の構築(他職種)

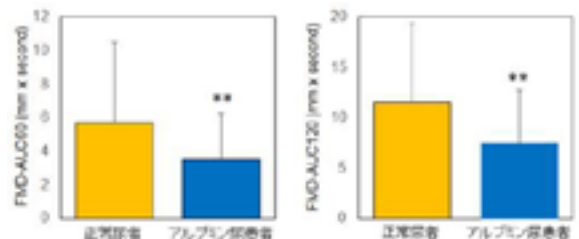
でき、良い刺激になったと共に、今後どのように解決していくかなど、新たな意欲を惹起させてもらえる場でした。また、他の方々の発表を聞くことでも、プレゼン力、研究の着眼点や研究方法など多くの知見を得ることが出来たと思います。学会発表は、自分自身の視野を広げるだけでなく、研究を発展させる上で絶好の機会です。日々探求心や向上心を持って研究を行い、次回、またこのような機会に恵まれた時には、今回反省した点を踏まえ、満足のいく、そして聴講者の記憶に残るような発表を行いたいと思います。

### 「Associations between Microalbuminuria and Parameters of Flow-mediated Vasodilatation Obtained by Continuous Measurement Approaches」



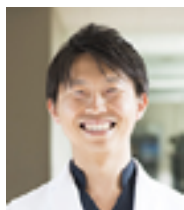
Koyoshi R, Yoshimine Y, Shiga Y, Kuwano T, Sugihara M, Ike A, Iwata A, Sako H, Morito N, Kawamura A, Miura S.

小吉先生 2018年3月23日大阪で開催された日本循環器学会総会でポスター発表の機会をいただき、「Associations between microalbuminuria and parameters of flow-mediated vasodilatation obtained by continuous measurement approaches」の演題で発表致しました。この演題は学位論文のテーマであった、血管内皮機能と冠動脈疾患との関連についての研究のサブ解析であり、今回の解析で、複数ある血管内皮機能のパラメーターの中で FMD-AUC120sec が尿中微量アルブミンの予測因子であることが示唆されました。これまで、部外研修で大学を離れている間、学会発表からは遠ざかっており、久しぶりの発表で緊張しましたが、英語のポスター発表であり貴重な経験ができたと思います。学会発表が継続できるよう、引き続き精進して参ります。



アルブミン尿患者では FMD の指標が有意に低値 \*\*

### 「Differential Contributing Factors for In-stent Restenosis (ISR) after Percutaneous Coronary Intervention (PCI) among 3 Generations of Stents」

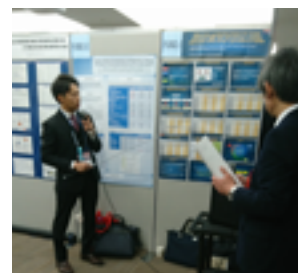


中村先生

中村誠之、池周而、桑野孝志、杉原充、岩田敦、西川宏明、三浦伸一郎

☆第2世代薬剤溶出性ステントを使用しても腎障害や ACC/AHA type B2+c の患者、ステント拡張不良の場合はステント内再狭窄に注意が必要

第82回日本循環器学会総会にて“Differential contributing factors for in-stent restenosis (ISR) after percutaneous coronary intervention (PCI) among 3 generations of stents”のタイトルでポスター発表をしました。Bare metal stent (BMS)、第1世代 Drug eluting stent (DES)、第2世代 DES において、ISR に寄与する因子について当院の FU-Registry を用いて検討した結果を報告しました。また、石田先生の発表、Impact of the Serum EPA/AA Ratio in Patients with Critical Limb Ischemia で、EPA/AA 比で CLI 患者における差異を検討したもので非常に興味深く、今後の臨床において薬物の選択に影響を与える貴重な発表と感じました。以上、非常に意義深い学会でした。



### 「Anti-atherosclerotic Effects of Improved Apolipoprotein (Apo) A-I Mimetic Peptide」

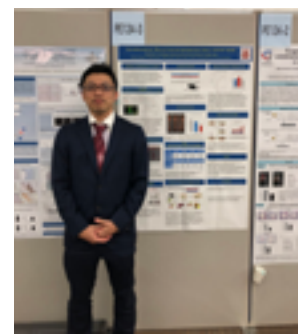


末松先生

Suematsu Y, Idemoto Y, Kuwano T, Imaizumi S, Uehara Y, Saku K, Miura S

☆改良型 ApoA-I 模倣ペプチドは、抗動脈硬化作用が従来型に比べて強力であった。

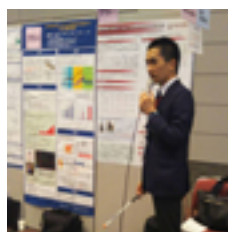
アポリポ蛋白 A-I は HDL コレステロールを構成するアポ蛋白であり、コレステロール引き抜き能に重要な役割を持っており、心血管疾患に対して保護的な作用を持っている。以前私たちは FAMP (Fukuoka University apolipoprotein A-I Mimetic Peptide) と名付けたアポリポ蛋白 A-I 模倣ペプチドを独自に合成し、その抗動脈硬化作用、HDL 機能改善作用などを報告してきた。今回は、FAMP の C 末端にアラニンを付加し、より生体内での安定性の高めた改良型 FAMP を合成し、その抗動脈硬化作用、HDL 機能改善作用について検討した。In vivo にて改良型 FAMP は FAMP より有意に動脈硬化を抑制し、コレステロール引き抜き能が高い事を確認した。また In vitro では ABCA1 依存性に改良型 FAMP のコレステロール引き抜き能が高まる事を確認した。改良型 FAMP は動脈硬化性疾患に対する新たな治療薬として期待されます。



### 「Impact of the Serum EPA/AA Ratio in Patients with Critical Limb Ischemia」

石田紀久、杉原充、志賀悠平、池周而、桑野孝志、岩田敦、西川宏明、三浦伸一郎

☆血清 EPA/AA は重症下肢虚血患者の wound healing の指標となる。

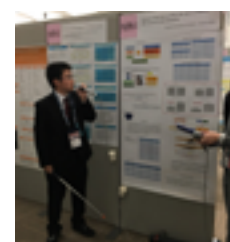


松田先生

### 「糖尿病を合併する心大血管疾患患者の体力」

松田拓朗、藤見幹太、戒能宏治、北島研、三浦伸一郎

☆心大血管疾患を有する患者に心肺運動負荷試験を実施したが、糖尿病合併の有無による体力差は認めなかった。



石田先生

### 「Association between New Target of Lipid Parameters and Long-term Clinical Outcomes after PCI in Patients with Diabetes Mellitus from Fu-Registry」

松岡優太、池周而、杉原充、朔啓二郎、三浦伸一郎

☆ PCI 後の2次予防では、HDL コレステロールを40mg/dl より高く、LDL コレステロールを70mg/dl 未満にすることが推奨される。



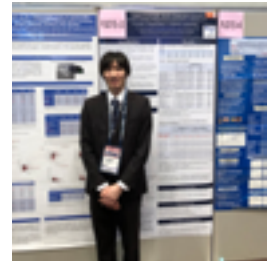
松岡先生



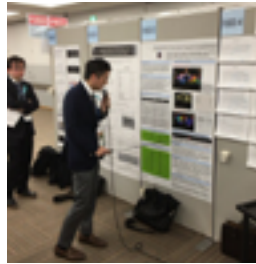
「Impact of the Triglyceride Level on Vulnerable Coronary Plaque in Female Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statins」

Yamashita M, Iwata A, Kato Y, Futami M, Imaizumi S, Kuwano T, Ike A, Sugihara M, Nishikawa H, Zhang B, Yasunaga S, Saku K, Miura S.

☆女性において血清中性脂肪値の高値は不安定プラークに関連する。



山下先生



森井先生

「Electroanatomical Features of Recurrences of Atrial Tachyarrhythmias in Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation: Comparison with Conventional AF Ablation」

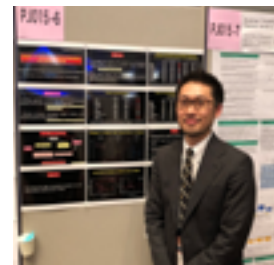
森井誠士、小川正浩、井手元良彰、小牧智、長田芳久、朔啓二郎、三浦伸一郎

☆ Compared to conventional ablation, Cryoballoon pulmonary vein isolation strategy is more effective for successful elimination of gap-related Atrial tachycardia or flutter.

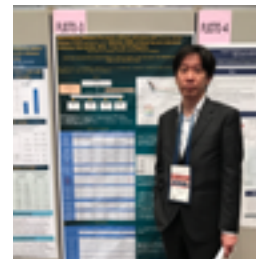
「The Prognostic Values as Assessed by Multidetector Coronary Computed Tomography Angiography (CCTA)」

志賀悠平、井手元良彰、上田容子、田代浩平、本里康太、矢野祐依子、則松賢次、中村歩、三浦伸一郎

☆ The presence and severity of coronary artery disease and coronary calcification score as assessed by CCTA have prognostic values, and plasma levels of pentraxin-3 may be a prognostic biomarker.



志賀先生



池先生

「Impact of 5 Years Clinical Outcomes in Patients with Both Chronic Kidney Disease and Diabetes Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention」

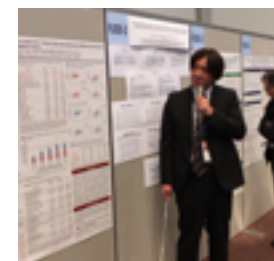
池周而、白井和之、西川宏明、松岡優太、杉原充、桑野孝志、張波、岩田敦、朔啓二郎、三浦伸一郎

☆ PCI 後の予後は、DM(+)CKD(+) 群が最も不良、DM(-)CKD(-) 群が最も良好、DM(-)CKD(+) 群と DM(+)CKD(-) 群は同等であった。

「Association between Cardiac Fats Volume and Left Ventricular Stiffness Parameters in Patients with Metabolic Factors」

佐光英人、小吉里枝、上田容子、志賀悠平、三浦伸一郎

☆メタボリック症候群の患者では、Cardiac fat volumeが end-diastolic elastance に関連していた。



佐光先生

Prof. Saku's Commentary

福岡大学医学部心臓・血管内科学から 27 の演題の発表ができたことを嬉しく感じています。これらの発表が、AHA、ACC、ESC での発表や国際誌での報告につなげたいですね。論文もたくさん出ていますが、質も量も以前から重要視しています。三浦教授に代わってから病棟での収益もずいぶん上がりました。安心感があります。私は、今年から日本循環器学会は特別会員、日本内科学会は功労会員ですから、学会費も免除になりましたが、払わなくていいと言われると払いたくなります。まだまだ、現役！のつもりです。